

和歌山が3位入賞

ラグビーー成年男子

小学生ら応援



3位に入賞し、ガッツポーズをする和歌山県チームの選手



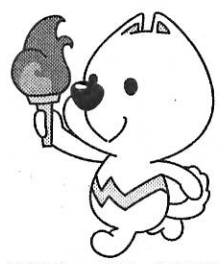
選手に声援を送る地元の小学生ら(4日、串本町サンゴ台で)

串本町サンゴ台のサン・ナンタンランド総合運動公園多目的グラウンドで3、4日、紀の国わかやま国体のラグビーフットボール(成年男子)競技があり、和歌山が3位に入賞した。会場には地元の小学生らも応援に訪れ、大きな声援を送った。

15人制と同じ広さのコートを使って7人制で行うもので、展開の早さが見どころ。2016年リオデジャネイロ五輪での開催が決定している。競技時間は前後半で7分ずつ。

16チームが4ブロックに分かれて予選リーグをし、各ブロックの1、2位が決勝トーナメントに進んだ。

和歌山は3日の予選リーグを福井、茨城、北海道に全勝して1位で通過。4日の決勝トーナメント1回戦で岩手を38-14で破り、準決勝で愛知



2015 紀の国わかやま国体

に19-28で敗れた。

3位決定戦では熊本と対戦。和歌山は前半に2本のトライとゴールを決めてリードし、後半2分に逆転を許したが、その1分後にトライとゴールを決め、21-19で勝った。西浦伸宜主将(28)は「田辺工業高校教諭」によると、逆転されたときは、どのチームよりも一番練習してきたという思いを胸に「和歌山の強さを見せよう、諦めないようにしよう」と気持ちを新たにしていたという。選手たちは試合終了後、互いに抱擁し、喜びを分かち合った。優勝は愛知、2位は東京だった。

観客席には地元の小学生など多くの人が応援に駆け付けた。「行け行け和歌山」「押せ押せ和歌山」などと声援を送り、点が入ると歓声を上げた。串本町西向小学校5年の谷本真菜さん(11)は「ラグビーは初めて観戦した。決勝トーナメントの2回戦では負けて悔しかったけど、3位を決める試合で勝つてものすごくうれしかった。チームの協力プレーがすごかった」と声を弾ませた。

西浦主将は「紀の国わかやま国体を目指して強化をしてきて、優勝が目標だったが、最後の最後で勝って終わることができてよかった。チームが一つになって戦い抜くことができ、皆さんの応援が試合中に選手の背中を押してくれ

た。国体をきっかけに、一人でも多くの和歌山の子もた

ちがラグビーを始めてくれるとうれしい」と話した。チームには西浦主将以外に紀南で勤務している人がいる。上富田町教育委員会の職員で同町の総合型スポーツクラブ「くちくまのクラブ」(シーカ)で小中学生にラグ

ビーを教えている瀧本拓哉選手(28)は「優勝したかったのが本音だが入賞できてうれ

しい。国体をきっかけに紀南地方でラグビーを楽しむ人が増えればいい」と話した。新宮市のみくまの支援学校職員で新宮高校ラグビー部0

Bの橋本良平選手(25)は「努力すればこいつは舞台に立てるということを知って

もらい、試合を見て少しでもラグビー選手をカッコいいと思ってもらうことで、ラグビー人口の増加につながれば」と述べた。